

平成21年1月28日

各 位

| | |
|-----------|------------------|
| 会 社 名 | 株式会社ドリコム |
| 代 表 者 名 | 代表取締役社長 内藤 裕紀 |
| コ ー ド 番 号 | 3793 (東証マザーズ) |
| 問 合 せ 先 | 経営管理部長 戸谷 光久 |
| 電 話 番 号 | 03 - 3232 - 1600 |

(修正)「特別損失並びに特別利益計上に関するお知らせ」の一部修正について

平成20年12月24日付で公表いたしました「特別損失並びに特別利益計上に関するお知らせ」につきまして、記載内容の一部に修正すべき事項がございましたので下記の通りお知らせいたします。なお、修正箇所を含むページについて、修正前と修正後をそれぞれ添付し、修正箇所には下線を付しております。

記

I. 修正の理由

当社は、平成20年12月24日付「特別損失並びに特別利益計上に関するお知らせ」の公表にあたり、今回の修正点を含め事前に確認の上、問題ない旨の見解をいただいて発表いたしました。株式会社ベストパートナーから收受した150百万円の返金を特別利益に計上することや、のれんの減損金額等につき、見解が最終的に変更となりましたので、これに対応して当該箇所を修正するものです。

II. 修正の箇所

(修正前)

1. 子会社株式評価損の計上及びのれん代の減損並びに特別利益計上の経緯

当社の連結子会社である株式会社ドリコムマーケティングの経営計画に関し設立当初の計画に対して昨今の市場の状況を鑑みますと見直しの必要性があることから、中期事業計画について保守的に見直しを行いました。これに伴い株式評価額を再度算定いたしました結果351百万円の評価減となり、これを受け株式会社ベストパートナー（株式会社光通信の100%子会社）より150百万円の返金があるため、相殺後の201百万円を単体の当期第3四半期における子会社株式評価損として特別損失を計上する予定です。

併せて連結におけるのれん代におきましても63百万円の減損損失として特別損失を計上する予定です。なお、株式会社ベストパートナーによる150百万円の入金に伴い、同金額のうち過年度分(平成18年12月～平成20年3月)におけるのれん償却相当額20百万円を特別利益として計上いたします。従いまして連結における当期純利益への影響はマイナス43百万円となります。

2. 業績に与える影響

今回の特別損失並びに特別利益の計上により、平成21年3月期通期連結業績の当期純利益におきましてマイナス43百万円、個別業績の当期純利益におきましてマイナス201百万円の影響となります。なお当期業績につきましては現在集計中でありますので、業績予想に変更がある場合は、判明し次第速やかに開示いたします。

(修正後)

1. 子会社株式評価損の計上及びのれん代の減損並びに特別利益計上の経緯

当社の連結子会社である株式会社ドリコムマーケティングの経営計画に関し設立当初の計画に対して昨今の市場の状況を鑑みますと見直しの必要性があることから、中期事業計画について保守的に見直しを行いました。これに伴い株式評価額を再度算定いたしました結果 351 百万円の評価減となり、これを受け株式会社ベストパートナー（株式会社光通信の 100%子会社）より 150 百万円の返金を受けました。これにより、単体の当期第 3 四半期における子会社株式評価損として 351 百万円を特別損失、関係会社株式補償金として 150 百万円を特別利益に計上する予定です。従いまして単体における当期純利益への影響はマイナス 201 百万円となります。

併せて連結におけるのれん代におきましても 241 百万円の減損損失、14 百万円ののれん一時償却費を特別損失に計上し、関係会社株式補償金として 150 百万円を特別利益として計上いたします。従いまして連結における当期純利益への影響はマイナス 105 百万円となります。

2. 業績に与える影響

今回の特別損失並びに特別利益の計上により、平成 21 年 3 月期通期連結業績の当期純利益におきましてマイナス 105 百万円、個別業績の当期純利益におきましてマイナス 201 百万円の影響となります。なお当期業績につきましては現在集計中でありますので、業績予想に変更がある場合は、判明し次第速やかに開示いたします。

以 上